

穏やかで過ごしやすい季節となりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか？
4月号のSawamoto Dental OfficeNewsでは、「大人のむし歯」について特集しました。
今月は、「歯を失うほど認知症になりやすい！？」について特集してまいります(^o^)



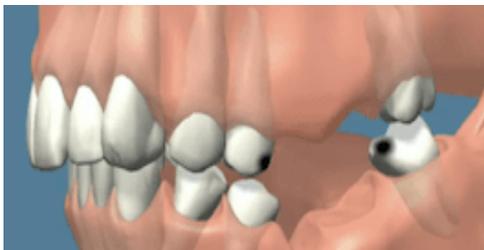
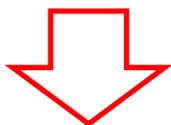
歯を失うほど認知症になりやすい！？

● 抜けた歯の放置で認知症のリスク増！

大人の虫歯に加えて気を付けたいのが歯が抜けた後です。たとえ1本でも歯が抜けたままにしていると、次々と歯を失う魔の連鎖に陥ることがあります。さらに、失った歯が多いほど、アルツハイマー型認知症になりやすいという報告も！

歯と脳が深く関係していることも明らかになってきています。歯を失う原因となるむし歯や歯周病を防ぐには、より効果的な方法で歯を磨くことが基本です。

● 歯を1本失うと、次々と歯を失うワケ



① 歯が抜ける

歯は、顎の骨を土台に、そこに突き刺さるようにして並んでいます。むし歯が悪化したり、歯周病によって土台の骨が失われたりすることで、歯が抜けてしまいます。

② 歯を支える骨が溶ける

歯が抜けると、その歯の周囲にあった顎の骨ももう用済みとばかりに溶けてしまい、元には戻りません。歯が抜けると同時に、噛んだ刺激を脳に伝える働きをする膜(歯根膜)も失われます。

③ まわりの歯がむし歯や歯周病に

顎の骨が溶けると、歯が抜けた空間に周囲の歯が倒れ込み、噛み合っていた上や下の歯が伸びてきます。

噛み合せが狂って歯並びが悪くなり、むし歯や歯周病になりやすい環境に...

④ 次々と歯を失う

歯並びや噛み合せが悪くなった状態のままにしていたり、歯磨きが不十分だと、よりむし歯や歯周病が悪化しやすくなります。それがさらに歯を失う原因になり、連鎖的に歯を失うこととなります。

アルツハイマー型認知症の患者さんを対象に、いつから歯を失ったのか調べたところ、健康な人よりも早い段階から歯を失っている傾向があることがわかりました。

噛んだ刺激は歯から脳に伝わり、脳を活性化させます。味覚や食感などの高度な感覚器官でもある口や歯の機能維持は、認知症予防の面でも重要なのです。



「歯を保つ」「抜けても放置しない」ことが、健康寿命を延ばします。
痛くなくても定期的に歯科を受診しましょう。

